

3、学校評価アンケートの結果考察 ※文中の数値は適宜四捨五入して表記しています

(1) I. [A]～[D] (建学の精神、人格教育、学習指導、学校行事) の満足度は良好

満足度のポイント平均は教師61(昨年62)、児童生徒72(昨年71)、保護者69(昨年70)と、すべて満足度60以上で従来と同程度で問題は無いレベルである。特に児童生徒と保護者から7割前後のポイントを得ているのは、学院の教育全般が良好な評価を受けており、満足度が高い状態と言える。

満足度の序列がどの部でも児童生徒>保護者>教師となっており、教師のポイントが最も低く、教師の自己評価が厳しいことが伺える。保護者のポイントが児童生徒よりも低いのは正確で公正な情報が伝わっていない可能性がある。保護者の評価は7割程度と高い評価を得ているものの74→70→69と年々下降傾向なのは注意すべきである。

教師の評価が初→中→高と同程度で推移している(60→60→64)のに対して、児童生徒の評価は中等部で大きく低下する(80→66→71)。これは昨年と同様の傾向である。保護者も同じような傾向を示している。(76→65→67)

中等部は周囲に対して不満・反発などを抱きがちな時期である上に、学校生活では初等部と高等部に挟まれて脚光を浴びる機会が少なく、いっそう不満を募らせる時期である。高校受験が無い中で、大学受験はまだ遠く、一種の目標喪失時期にあることもこの傾向を助長している。また自由回答欄の項で後述するように誤解を招きやすい教師の言動や不適切な授業の進め方などが悪影響を与えていると思われる。

高等部になると大きな目標が目前に迫るとともに教師の親身な指導で大学受験に成果が上がっている様子を身近に感じて評価が回復傾向になる。

(2) II. (意見聴取の機会)、IV. (情報公開の度合い) は今年度も低評価

IIにおける児童生徒の満足度は、初等部67(昨年65)→中等部53(昨年49)→高等部62(昨年59)、保護者は初等部62(昨年59)→中等部55(昨年55)→高等部57(昨年55)と50点台のポイントが多く、低めの評価である。特に中等部では上の(1)と同様の落ち込み現象がある。とはいえ全般的に昨年に比べて改善の傾向を示している。これは昨年の結果を受けて、教師に対し日常から児童生徒、保護者との丁寧な対応を指示したことや、保護者の求めに応じて面談の機会を多く持つなどしたことが効を奏していると思われる。

IVは児童生徒で初等部69(昨年71)→中等部53(昨年56)→高等部63(昨年60)、保護者では初等部64(昨年63)→中等部58(昨年61)→高等部59(昨年60)となっている。IIと同様に中等部で評価が低めで、なおかつ全般的に昨年より低下傾向にある。昨年、学院移転や放射線についての情報開示の要望が強かったため、移転パンフレットの製作・配布やHPへの掲載などを行ったが、成果がいまひとつ現れていないのは残念である。具体的に何を不満と感じているのか捕捉するために今年は自由回答欄を設けた。回答内容は<23>～<29>ページに取りまとめた。また自由回答についての考察は(7)の項を見てほしい。

昨年も述べたが教師は日常的に生徒の声に耳を傾け、声掛けをし、要望や悩みを早期に察知し、支援していくよう心がけなければならない。その上で磐石な信頼関係を築いていくことこそ学院の存続発展の土台であると考え。

(3) V. (安全対策) は高評価

安全対策はどの部でも評価が高く、平均ポイントで7.7と極めて高得点である。緊急地震速報の導入、登下校連絡システム、警備員常駐、下校方面別顔合わせ会、防災備蓄品など、自然災害、交通機関の障害、不審者などさまざまな事態を想定した何重もの対策が評価されていると考える。

(4) VI. (教育方針の達成度) は低下気味

「人格的な成長を通して学力的な成長をも達成する」という学院の教育方針の達成度・満足度を把握するための設問である。その結果、「人格的成長と学力的成長」が「両方とも大いに達成できている」と「まずまずできている」の合計が初中高全体で65%（昨年67%）とわずかに低下してはいるものの、6割以上の評価を受けていることから及第点と言える。

ただし、内訳で見ると高等部で69%（昨年62%）と向上しているのは良いが初等部で69%（昨年73%）、中等部で56%（昨年63%）と低下している。特に中等部では、生徒で55%（昨年64%）と10%程度低下し、保護者も57%（昨年62%）と低下している。学院の教育方針という核心部分で達成度が低下していることを危機的に受け止める必要がある。

その中で高等部生徒の評価は77%（昨年61%）と大きく向上している。12年一貫教育の最終段階で、生徒から高い評価を受けられるのは大変喜ばしいことである。日々の授業、行事、部活動などで教師の親身な指導やその成果を実感できている証左といえる。中等部でも、教師は生徒に対し同じように接しているはずなのに、評価の落差はどこから来るのか、その検討と対策を急ぐ必要がある。

(5) VII. (教育方針に対する要望) とVIII. (教師の推察) の乖離

「人格重視」または「両立」を要望しているのは児童生徒で67%（昨年67%）、保護者67%（昨年67%）、教師82%（昨年81%）で、これは人格教育に軸足を置いた両立教育を目指すルーテル学院の姿として望ましい姿と言える。

しかし、ここでも中等部生徒の「人格重視」と「両立」への要望は61%（昨年67%）と低下し、逆に学力重視要望が39%（昨年33%）へと増えている。前述（4）の結果とあわせて考えると、中等部生徒は「人格と学力の両立という基本方針の達成度は低い、もっと学力を重視してほしい」という傾向があることが分かる。ちなみに中等部保護者の学力重視の要望は23%（昨年28%）にすぎない。

これに対し、中等部教師は65%もの教師が「保護者はもっと学力を重視して欲しいと要望しているのではないかと推察している。教師は保護者の要望より、むしろ生徒の要望、雰囲気、圧力のようなものに敏感に反応し、そのように回答しているのではないかと考えられる。

(6) 教師Ⅶ. (教師の要望) に見える課題

教師の要望における人格重視が43% (昨年24%) と2倍近くに増加している。特に中等部教師にこの傾向が強い43% (昨年17%)。中等部では発達段階的に生活指導的な事案が発生しやすいので、土台となる人格育成への要望が強まるのは当然といえる。

中等部をめぐる問題点を整理すると、生徒は学習、生活、教師との関わりなど学校生活全般に不満があり、教育方針達成度が低いので、もっと学力重視にシフトしてほしいと要望している。これに対し、教師は生徒・保護者の不満や学力重視の圧力を感じつつも、諸問題の根本である人格教育の必要を強く感じている。

「中等部問題」とも言えるこの問題を解決し、生徒・保護者の満足度を上げ、展望を持って学校生活を送れるようにすることが早急に求められている。またこの問題は中等部に顕著に現れているものの学院全体に共通する課題をはらんでいると思われ、いっそうの分析と対策検討を進めていく必要がある。

(7) 自由回答欄の記述に関する考察

設定基準の項で述べたように、問題点を具体的に把握するために自由回答欄を設けた。回答率は児童生徒12.6%、保護者10.5%である。内容は学院の教育内容や教師の対応のへ好評価や感謝もあるが、大部分は批判や要望である。残りの9割近くは文章に書いて回答せずにはいられないほどの強い不満・要望は持っていないとも言える。

対応を考える上で、とりあえず中身を3種類に分類してみた。

① 一方的な見方や不正確な意見

学院や教師に対し、見方が一方的であったり、不正確な情報に基づくと思われる意見。児童生徒からの伝聞を鵜呑みにしていたり、特殊な例を恒常的一般的なことと誤解していると思われるもの。

- 例)・小さくても古くても面倒見の良い、絆の深い学校がルーテルの良さなのに大きく違う方向に変わろうとしている (高等部保護者)
- ・サラリーマン教師が多すぎる (中等部保護者)
 - ・歴史授業の進みが止まっている。外部受験の阻止がねらいと噂が出ている (中等部保護者)
 - ・いじめに対し気づかないふり。通報なければ動かない。(中等部保護者)
 - ・明らかにこのクラスが嫌いと言われ、生徒にも分かる態度で接する教師は如何なものか (高等部保護者)

② 教師の態度や授業の進め方を改善し、解決しなければならない問題

真摯に受け止めなければならない的確な指摘や要望も多い。その中で「教師の対応の仕方や言葉遣いを改める」「授業の進め方、学習内容の配列の仕方を改善する」など各部長や教科主任のレベルでの検討や問題教師への個人的指導で改善できる問題が多い。

- 例)・もう少し細かく対応してほしい。教え方が分かりにくい先生がいる (中等部生徒)
- ・教師によって指導に大きな違いがある (漢字のトメ、ハライなど統一がない)。

- ・ 作文指導に熱意の感じられない教師もいる(初等部保護者)
- ・ 先生に無視されることが多く、聞き方や答え方が他の人と違う(中等部生徒)
- ・ 先生に質問すると「それは高校で習うので」と教えてくれず、子どもの意欲をうばう (中等部保護者)
- ・ 数学は教科書を使い、まず授業で基本を指導した上で問題に取り組みさせてほしい(中等部保護者)
- ・ 指導の際、教師の言葉遣いが悪い(中等部保護者)
- ・ 威圧しているような先生とはコミュニケーションが取れない (中等部生徒)
- ・ 子どもが欠席しても教師から連絡や心配の声掛けがない。(初等部保護者)
- ・ 何人かの教師が挨拶をしても返してくれず、無愛想な感じで子どもを預けるのに不安(中等部保護者)
- ・ 数学は教科書を使い、まず授業で基本を指導した上で問題に取り組みさせてほしい(中等部保護者)
- ・ 中等部で高等部の内容に踏み込んだ学習をするのは良いが基本を飛ばして数式や理論を教えるのは無理がある。9年で教科書なしで高校数学や化学を学習するのは大変だった。(高等部保護者)
- ・ 個人面接で初等部の時は本人の個性や学校生活の様子など聞けたが、中等部では学習面のアップダウンの話ばかりで期待薄すい(中等部保護者)

③学校体制の問題として対策・対応を検討していかなければならない問題

学校全体の体制や基本方針に関わる、②よりさらに上のレベルでの対応が必要な問題

例) いじめの対処ができていない

- ・ いじめの際加害者の子に対する指導を家庭ふくめてもっとしてほしい
- ・ いじめられると先生に言っても聞いてくれない
- ・ 初等部時代いじめ、いやがらせに関する開示が少なかった
- ・ 12年生を行事に参加させてほしい
- ・ 学年上がるにつれ保護者会が減り残念。個人面接15分では短い
- ・ 保護者会、PTA総会等の場での情報公開の準備や内容が薄い
- ・ 移転にともなう、通学方法、施設費改訂の有無、利便性、安全性などの説明が不足
- ・ 初等部では現在の方針が良いが、中高等部では学力を重視してほしい
- ・ 方針は立派だが教育現場に生かされていない。
- ・ 学力面以上に人としてどうあるべきか追求する機会を多くとってほしい。大学進学を目前に最低限の学力を付けられるよう学習内容を充実させてほしい。

多くの批判・要望が寄せられることは、裏返せば学院への期待も高いからである。これらの期待に応えることを通して学院の教育の質的向上や発展の良い契機としなければならぬと考える。

今年度アンケートの結果考察は自己評価委員会のメンバーである、初等部長、同副部長、中高等部長、同副部長から提出された意見を踏まえて作成した。 教頭 福島

4、2013年度学校関係者評価委員会・懇話会議事録及び授業参観まとめ

第1回学校関係者評価委員会・懇話会議事録

2013,11,29

日時 2013年11月29日(火) 12:30~14:00

午前中3・4時間目小中高授業参観、その後懇話会

場所 学院視聴覚室

出席者 学校関係者評価委員：秋元利英(評議員、PTA会長)、安藤誠四郎(理事)、小林賢太郎(理事、同窓会会長)

学校評価委員：藤倉二三男(校長)、福島宏政(教頭・司会)

オブザーバー：東海林敏雄(理事長)

議事

1、授業参観について

(1) 実施に当たって(福島)

- ・昨年指摘された「授業中の発言や音読の声が小さい」「態度が消極的」などの課題がどの程度改善されたか。
- ・1年A組の複数の問題行動児に対する、複数教師の配置や対応は効果的か。

(2) 初等部の授業について意見交換

- ・落ち着きの無い児童の場合、愛情不足や欲求不満が原因のことがある。根気強く対応してあげることが必要。
- ・6年間で改善した前例もある。現1年生にも今後の改善を期待できる。
- ・2年英語は以前に比べ教師と児童のやり取りが活発でない様感じた。
- ・忘れ物(プリント類)が学習に支障をきたしている様子がある。
- ・忘れ物については低学年から重点的に指導しているが、ごく一部に充分改善しない者もいて、そういう者に限って中等部への進級で問題になる。低学年から家庭教育の一環として忘れ物指導をお願いしているが、それぞれの事情もあって効果が継続しない家庭もある。
- ・空調やスペースなど教室環境が移転を機に改善できるといい。

(3) 中高等部の授業について意見交換

- ・授業の進め方は改善されている。
- ・教師の声が大きく、説明が分かりやすい
- ・高校生は授業を聞く姿勢がよい
- ・生徒が自分の問題として考えられる発問の工夫がある。
- ・生徒のプレゼン能力を高める指導が必要である。
- ・生徒の発表意欲を引き出す教師の働きかけがもっとほしい。また発言の訓練のために生徒が発表せざるをえない機会を増やすとよい。
- ・生徒の何気ない疑問を取り上げて、授業に生かす工夫があるとよい。

2、学校評価アンケート調査について

(1) 今年度の傾向と新しい試み(福島)

- ・概ね6~7割の評価を得ている。
- ・意見聴取や情報公開の評価が低い(5割台)。
- ・学校の方針について、人格教育を重視してほしいという教師の要望が強い。

※教師全体で昨年24.4%が42.3%に増加。特に中等部教師は18%から43.4%へと増加が目立つ。

- ・ 中等部では生徒の問題が多く、面接指導などに多大な労力が必要な現状のため、土台となる人格育成への要望が強まっていると思われる。
- ・ 今年度全アンケートに自由解答欄を設けた。回答率はどの種類も10%程度である。
- ・ 学院の教育内容や教師の姿勢を評価する記入も多いが、批判や不満も出ている。
例：教師の指導内容にばらつきがある。教師の言動や態度に問題がある。学院の移転や山の上再開に関する情報公開が不十分など・・・

(2) 意見交換

- ・ 教師から「行事準備などに追われ教材研究が後回し」という意見があるが。
- ・ 子どもの成長にとって必要な行事を精選して実施しており、行事と教材研究は両立させてほしい。
- ・ 時間はかかるが、教師が部会で充分検討し共通見解を持つ過程を尊重している。
- ・ 初等部の「保護者からは学力の相談が圧倒的に多い」のはなぜか。
- ・ 学年が上がるにつれ学力差が大きくなる。家庭教育のありかた、苦手克服の方法、さらに将来の受験に対応できる力の育成など、学習・学力の相談が増えるのは必然である。
- ・ 教師の自己評価は相変わらず厳しいが、向上していると言う評価は出ないのか。
- ・ 不断の努力が成果を生む、自己評価が甘くなって満足したら成長は止まる。
- ・ 学校の方針に対し、人格重視の教師の意見が多いが。
- ・ 特に中等部あたりでは生徒の問題が多く、面接指導などに多大な労力が必要なため、基本の人格教育への要望が強まっている。
- ・ 問題があるとつい原因を下の学年に求めてしまう気持ちがある。
- ・ 最近、1年生段階で学習習慣や集団行動のしつけに大変時間と労力がかかる。それだけ児童の質、家庭の質が変化している印象がある。
- ・ 問題解決に当たり、家庭と学校、高学年と低学年の間で責任の押し付け合いにあってはいけない。
- ・ 一貫校のメリットを生かし、各部署や学年の間の相互乗り入れによって解決を目指す。
- ・ 「中等部から転入した生徒が赤点を取るようでは保護者の印象は良くない」という意見があるが。
- ・ そういう生徒も試験はクリアして転入してきた。低得点の子を選んで入れているわけではない。
- ・ 1年生の問題行動児の件では、当の保護者の自覚はあるのか。
- ・ 自分の子の訴えや伝聞だけでは理解が不正確。自分の子が一方的被害者と限らないこともあり、お互い様の場面もある。
- ・ 学校に来て実態を見ていただき、正しい理解が解決の第一歩。
- ・ 12年一貫校では他に責任転嫁できない。皆でシェアし全体で取り組む姿勢大切。保護者の協力も不可欠である。
- ・ 保護者の疑問、不安に対してはいつでも授業参観や教育相談などオープンな姿勢で対応している。
- ・ 初等部教師「言っても無駄かと自分の守備範囲を守るだけの態度になっている」のは問題では。
- ・ 感情的な摩擦が生じそうなことは避けているが、大切な問題については部会などで話し合って解決している。
- ・ 部会の話し合いの中で、意見の吸い上げ、合意の形成、他部や学校全体の理解促進など部長の果たす役割が大変大きい。

次の表は学校関係者評価委員に11月29日に授業参観後、回答していただいた内容をまとめたものです

A大いに評価できる Bまずまず評価できる Cやや問題がある D大いに問題がある

教師に関する評価観点				
	観 点	A委員	B委員	C委員
1	声量、言葉遣い、指示の出し方、説明の仕方等は適切か	A	B 皆さん大きな声で話している。トーンが高い先生もいて、少し抑えた方が良い	B 前回より改善されている、聞きやすくなっている。
2	板書の仕方、机間巡視、児童生徒の指名等は適切か	B	A いろいろ工夫している様子が見える。現物を使う授業が判り易く、生徒の目付きが光っている。	B 板書きはよくできている。
3	児童生徒への対応、つまずき等への対応は適切か	B	B ちょっと遠慮気味か？	今回の参観では判断できない。
4	分かりやすく楽しい授業を心がけているか	A	B 教師の熱心さ努力の様子が感じられる。	B わかりやすいと思う。
5	教材準備、教材研究、指導方法の工夫等は出来ているか	A	B もう少し教材の工夫が有ると良い	B 理科等では実際の物で説明した方が理解しやすい、磁石等。
6	その他			10年生以上では、個人の意見を発表できる場所を作るべきです。
児童生徒に関する観点				
1	授業態度(聞く態度、作業態度、ノートの取り方、私語など)	B	B 概して皆さん真面目に取り組んでいる様子が受け取れた。	B よく聞いていると思います。
2	積極的に参加しているか(挙手、発言、質問等)	B	B もう少し活発な元気があればよい。発言の機会がもう少し欲しい感じ。	C 生徒の発言は少ない。
3	教師との関わり方はどうか(言葉遣い等)	A	B コミュニケーションのスキルを身に付けるために。意識的な訓練が有るとよい	B いいと思います。
4	授業中以外の態度はどうか(挨拶、言葉遣い、友人との関わり方等)	A	B 廊下での挨拶は良く出来ている	B いいと思います
5	その他			
環境や施設に関する観点				
1	校舎内の壁、床、天井、窓、トイレ等に汚れや破損はないか	A	A 植物を育てている等、良い事だ。良く清潔に保たれている。	C 建築から年月が経っているので、汚れは多少あり。
2	教室内、廊下等の整備は適切か(整理整頓、汚れ、掲示物の乱れ等)	A	B 教室内の整理整頓は出来ている。	B 建築から年月が経っているので、汚れ多少あり。
3	机・椅子・教材教具等は適切か(汚れ、破損、故障等)	A	C 椅子の床との擦れ音は不協和音で何とかしたい。	B 年月が経っているので、汚れ多少あり。
4	安全・防災設備は適切か(火災報知器、非常灯等)	A	B 定期的な訓練は出来ていると思うが	B いいと思います。
5	その他			

日時 2014年2月10日(月) 12:30~14:00

午前中3・4時間目小中高授業参観、その後懇話会

場所 学院視聴覚室

出席者 学校関係者評価委員：秋元利英(評議員、PTA会長)、安藤誠四郎(理事)、小林賢太郎(理事、同窓会会長)

学校評価委員：藤倉二三男(校長)、福島宏政(教頭・司会)

オブザーバー：東海林敏雄(理事長)

議事

1、授業参観について

(1) 授業全般について意見交換

- ・全般に教師の説明は声も大きく分かりやすく良い。
- ・児童生徒の反応がよくなってきたが、音読や発言の声が小さい、教師とのやり取りが少ないなど、児童生徒の自己表現の点でまだ不十分。
- ・初等部の音読などで小さな声を見過ごすとそのでよいという指導になってしまう。
- ・学年が上がるにつれて授業態度がだんだん消極的になる傾向がある。
- ・教師のほうも自分の授業を客観的に振り返る機会が少なく、生徒への注意の仕方など改善点を自覚できていないこともある。
- ・児童生徒の授業態度や受け答えの仕方など、基準を明確にして教師の共通理解を図るとよい。
- ・授業活性化のひとつとしてクラスで様々な問題を討論する、データを集める、発表するなどの方法が考えられる。
- ・授業の進め方は起承転結を考え、導入部分を工夫するとよい。
- ・生徒数の減少を解決するひとつの方法として、教師どうし、生徒と教師の挨拶をしっかりと行い、信頼関係をよくする。
- ・教室前面の掲示物(クラス目標やルールなど)が多くて授業の集中の妨げになっていないか。
- ・掲示物にクラスのカラーや担任の持ち味が出ている。
- ・新校舎の掲示環境をどうするかも含めて検討していくとよい。

(2) 授業参観の各委員の感想は次ページ表にまとめた。

2013年度学校評価 第2回授業参観まとめ (2014,2,10 実施)

次の表は2月10日3、4時間目に行ったA、B、Cの3名の学校関係者評価委員による授業参観の評価をまとめたものです。

<3時間目>

1 B 聖書 五十嵐依恵			
	教師に関すること	児童生徒に関すること	環境・施設に関すること
C 委員	とても分かりやすい授業だった。		
4 A 英語 魏恭子・キャシーフランキー			
	教師に関すること	児童生徒に関すること	環境・施設に関すること
A 委員		児童が積極的に挙手している。	
C 委員	話にストーリーがあり、先生と生徒の会話があり良い。	挙手した児童は分かっていると思うが、挙手していない児童にも質問を。	
4 B 算数 川崎宏			
	教師に関すること	児童生徒に関すること	環境・施設に関すること
A 委員		全員参加の姿勢が良い	
C 委員	分かりやすい授業でよい。児童に質問して理解の確認をしてほしい。		
5 A 国語 関根由佳			
	教師に関すること	児童生徒に関すること	環境・施設に関すること
A 委員	生徒とやり取りをしながら授業を進めているのが良い	児童がきちんと聞いている	
6 A 算数 近藤秀明			
	教師に関すること	児童生徒に関すること	環境・施設に関すること
A 委員	2人の児童が授業中、教室の中でテストを受けていたが、学習が遅れな いか。	授業を受けている児童たちは先生の話をしっかり聞いていた。	
6 B 社会 武正珠美			
	教師に関すること	児童生徒に関すること	環境・施設に関すること
A 委員	児童と対話しながら授業を進めている。	全員が集中していた。	
C 委員	先生と児童の相互で会話があり良かった。		

7 A 数学 長谷川久			
	教師に関すること	児童生徒に関すること	環境・施設に関すること
B 委員	生徒との会話は good ! 生徒を前に出させて解答させるなど生徒とのやり取りが良い。	のびのびと学んでいる。 先生の説明中に私語が多い。生徒の発言の音がやはり小さい。	窓ガラスがきれい。 習字の展示が良い。
7 B 英語 石井道子			
	教師に関すること	児童生徒に関すること	環境・施設に関すること
B 委員	先生の発音が良い。 先生からの投げかけに対する生徒のレスポンスが楽しそう。	生徒の応答の音が小さい。もっと大きな声でハキハキと答えられるとよい。 ノートの文字がきれい。	カーテン
8 A 聖書 田中かおる			
	教師に関すること	児童生徒に関すること	環境・施設に関すること
A 委員		おとなしく静かで良い授業。 聖書朗読の音が小さい。	窓ガラスが明るい。
9 A 美術 鈴木信			
	教師に関すること	児童生徒に関すること	環境・施設に関すること
A 委員		楽しく制作している。 うるさい生徒が多い。	
B 委員			児童の作品が展示されているのはとても良い。
10 B 生物基礎 佐藤喜隆			
	教師に関すること	児童生徒に関すること	環境・施設に関すること
A 委員	途中、生徒の興味を引くように話を入れているのが良い。言葉遣いは丁寧。	授業を聞く、受ける姿勢は良い。	

<4時間目>

2 B 聖書 篠田真紀子			
	教師に関すること	児童生徒に関すること	環境・施設に関すること
A 委員	しっかり楽しく授業をすすめていて良い。声が聞き取りやすい。	楽しそうに参加している。3学期なのにまだ落ち着きのない児童がいる。	
7 A 英語 平岩知子			
	教師に関すること	児童生徒に関すること	環境・施設に関すること
A 委員	私語などへの注意が不十分。	生徒の私語が多くざわついている。	

7 B 数学 長谷川久			
	教師に関すること	児童生徒に関すること	環境・施設に関すること
A 委員	生徒に適度に答えさせながら進めていて良い。		
8 B 聖書 田中かおる			
	教師に関すること	児童生徒に関すること	環境・施設に関すること
A 委員	話が分かりやすく、聞き取りやすかった。	落ち着いて授業を受けている。	
9 A 理科 松本広野			
	教師に関すること	児童生徒に関すること	環境・施設に関すること
B 委員	先生の声が大きくはっきりしていて良い。	熱心に取り組んでいる様子。	後壁面、掲示物きれいに整えられている。
10 A 国語総合 後藤有司			
	教師に関すること	児童生徒に関すること	環境・施設に関すること
B 委員	先生の声、大きく分かりやすい。板書の記述も分かりやすくてよい。	挙手で質問など、生徒の応答スムーズで良い。	
10 B 日本史 船津創			
	教師に関すること	児童生徒に関すること	環境・施設に関すること
B 委員	先生の声、大きく分かりやすい。	テキスト朗読など生徒の声が小さいが、応答がしっかりしていて良い生徒もいる。	